

科目名	近代日本社会変動論特講	担当者	コミネ 小峰 カズオ 和夫	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>①現代日本社会の現状を社会変動の視点からとらえる目を養う。 ②日本企業のあり方をめぐる論議の中で、近年注目されている「ホワイトカラーエグゼンプション」について考え、その導入がいかなる変化を労働現場にもたらすかをさぐる。 ③変動著しい現代社会を動かす最大の経済主体である企業、とくに株式会社の本質について考え、そこから市場経済社会の特質や企業人の在り方などについての理解を深める。 ④現代社会を全体的、構造的にとらえ、変化の意味するものを見抜く力を養う。</p>		
到達目標	<p>①企業を中心とする現代日本社会の構造的変化に関する知識と視野をひろげる。 ②現代社会を本質的なところからとらえる力を向上させる。 ③教材、参考図書に目を通して読書力をアップさせる。 ④レポート作成作業を通じて、論理構成力や文章表現力を向上させ、自己の見解や主張を明確に論述できる能力を養う。</p>		
学修方法	<p>①指定の教材をしっかりと読む。 ②レポートの課題を的確につかみ、見当外れのレポートにならないようにする。 ③読書感想文のような主観的な論述で終わらないように気をつける。 ④上記③を確かなものにする一つの方法として、教材以外の文献にも目を通すようにする。 ⑤レポートを書くときには、形式（章立てなど）や内容構成をきちんと整えると同時に、文章や字句等に誤りのないよう注意を払う。 ⑥提出した草稿に対する添削結果をよく読み、それに積極的に対応することによって、学習内容を一層充実させる。</p>		
スケジュール	<p>①履修者確定後：担当講師から学習上の注意点の指示。 ②草稿の提出：前期は7月末までに、後期は11月末までに、それぞれ最低1回は草稿を提出し、添削を受ける。 ③草稿の手直し：前期は8月末までに、後期は12月末までに、添削結果に対応した改善を草稿に加える。 ④前期後期それぞれ所定の期限までに正式の原稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	教材の理解度、レポートの構成、文章力と語彙力、参考文献等の利用具合、全体の論旨の明快度等をみる。
	平常評価	30%	草稿の提出状況、添削結果への対応状況、担当講師とのコミュニケーション等を通じての履修態度、熱心度をみる。
履修者への要望	<p>①担当講師からの連絡指示等に対してはかならず返信を出すこと。 ②草稿等提出にあたっては、担当講師に一言メッセージを送ること。 ③学習は、あくまでも自分のためにおこなうものと心得、できるかぎり真摯に取り組むようにすること。 ④とくに教材に関してはきちんと読み込み、課題に適切に対応したレポートを書くようにすること。 ⑤レポートの作成等に関して疑問などのあるときは、遠慮せずに積極的に担当講師に質問のメール等を送ること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 海老原嗣生 教材名： 『いっしょうけんめい「働かない」社会をつくる』（PHP 研究所，2014 年） ISBN:978-4-569-82104-7 820 円+税</p> <p>日本企業の終身雇用制や年功序列制は、バブル景気崩壊後変容を余儀なくされてきた。リストラ、成果主義導入、新採用削減、非正規雇用拡大、賃金頭打ち等々、会社員をめぐる雇用環境は激変していった。そのなかで近年議論を呼んでいるのが「ホワイトカラーエグゼンプション」導入の是非である。</p> <p>本書は、誤解されているところも多い「エグゼンプション」を、日本の会社員の働きすぎ構造を変える契機ととらえ、日本の雇用人事システムの根本的改善の可能性を論じたものである。欧米企業との比較の中で、日本企業の旧来の雇用人事システムのメリット・デメリットを丁寧に考察している。以下がおもな内容である。</p> <p>○経営側が隠しているエグゼンプション導入の本音 ○なぜエグゼンプションは必要になったのか？ ○なぜ欧米人は、しっかりと「働かない」のか ○労働者都合でのエグゼンプション設計 ○どこまで日本型を変えるべきか ○法律でできることと、企業が考えること ○みんなで歌う、日本型雇用へのレクイエム</p>
参考図書	<p>高橋伸夫『虚妄の成果主義』（筑摩書房，2010 年）ISBN:978-4-480-42759-5 740 円+税 岡田斗司夫『僕たちは就職しなくてもいいのかもしれない』（PHP 研究所，2014 年） ISBN:978-4-569-82121-4 760 円+税 濱口桂一郎『日本の雇用と中高年』（筑摩書房，2014 年）ISBN:978-4-480-06773-9 780 円+税</p>
履修上のポイント	<p>(1)まずは教材をきちんと読んでほしい。 (2)テーマの性格からすると、自分自身の体験などに照らし合わせながら、教材の中で出会う様々な事実や意見をよく吟味してほしい。 (3)教材だけを読んでレポートを書くのではなく、たとえば上記の参考図書に挙げられているような本にも目を通して、色々な角度から問題を考えるようにしてほしい。</p>
レポート課題 1	<p>日本と欧米の企業の雇用人事システムの違いを、教材をもとに説明しなさい。それについて感じたことやコメントしたいことがあれば自由に述べなさい。 留意点：自己の体験を生かすことが大切であると同時に、いままでの自分の考えを再検証する機会であるとの意識を持ってレポートするのが望ましい。</p>
レポート課題 2	<p>日本の企業に「エグゼンプション」が導入されたとすると、どんな変化が企業や社会に起こると予想されるか。教材を参考にしながら自由に論じなさい。 留意点：当該問題に対する自分なりの意見をまとめるつもりで書くのが望ましい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 平川克美 教材名： 『株式会社という病』（文藝春秋，2011 年） ISBN:978-4-16-780155-7 648 円+税</p> <p>現代は、市場経済、資本主義経済の社会である。これを支配し牽引しているのは会社、とりわけ株式会社という組織である。経済領域のみならず、社会のあらゆる領域に株式会社の力が拡大浸透し、我々の生活様式、人生のありようまで深く影響するようになっている。株式会社の本質について知らなければ、会社やビジネスの変容を的確にとらえることはできず、ひいては現代社会の構造や動態についても、洞察力を深めることはできない。本教材は、この問題を考えるには適切な入門書である。目次は以下のとおりである。</p> <p>第一章 経済的人間 第二章 信憑論 第三章 幻想論 第四章 因果論 第五章 技術論 第六章 倫理論</p>
参考図書	<p>岩井克人『会社はこれからどうなるのか』（平凡社，2003 年）ISBN:978-4-58-282977-8 1,600 円+税 ジョエル・ベイカン『ザ・コーポレーション』（早川書房，2004 年） ISBN:978-4-15-208604-4 1,800 円+税 網島邦夫『社員力革命』（日本経済新聞出版社，2006 年）ISBN:978-4-53-231293-0 1,800 円+税</p>
履修上のポイント	<p>(1)教材は、単なるビジネス書、経営書ではなく、非常に幅広い視野から多面的に問題を論じているので、じっくり読んで自らの思索を深めるようにしてほしい。 (2)本書のようなテーマは、読者の体験に照らしつつ考えることが大切なので、学校や会社などでのそれぞれの体験をも生かしたレポートにしてほしい。 (3)参考図書もなるべくどれか 1 冊は読んでみて、教材の理解を深めるのに役立ててほしい。</p>
レポート課題 1	<p>株式会社とはそもそも何者なのか。教材に展開されている著者の考えをまとめ、そのあとでそれについて論評しなさい。 留意点：著者の見解を正確に理解したうえで、きちんとした論評を書くようにしてほしい。</p>
レポート課題 2	<p>日本の会社（特に株式会社）の現状や将来について、自らの経験をふまえて、教材等を参考にしながら論じなさい。 留意点：レポート課題 1 と同じ。</p>